【小6】国語 文章問題　物語文 1

月　日 名前　　／100点

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

卒業文集の原こうが、どうしても書けなかった。題は「六年間の思い出」。みんなは運動会や修学旅行のことをすらすら書いているのに、わたしの原こう用紙は、名前を書いたところで止まったままだった。特別な思い出がないわけではない。でも、どれを書いても、ほかの人と同じになってしまう気がした。

放課後、教室に残っていると、担任の森先生が声をかけてくれた。

「書けないの。」

わたしはうなずいた。

「じゃあ、この六年間で、いちばんよく見ていたものは何。」

少し考えて、わたしは答えた。

「……窓から見える、校庭のさくらの木です。」

一年生のとき、わたしの席は窓ぎわで、授業中によく外を見ては注意されていた。春には花がさき、夏には葉がしげり、冬にははだかの枝が風にゆれていた。六年間、学年が上がって教室がかわっても、どの窓からも、あの木だけは見えていた。

「それを書けばいいよ。あなたにしか書けないことだから。」

家に帰って、わたしは原こう用紙に向かった。さくらの木のことを書きはじめると、その木の下でけんかをしたこと、なかなおりをしたこと、一人でないた日のことまで、次々と思い出された。行事の思い出よりも、ずっと自分らしい言葉が、ますをうめていった。

書き終えた原こうの題を、わたしは消した。そして、新しく書きなおした。「窓の向こうのさくら」。

（この問題のための書き下ろし）

問一　わたしが原こうを書けなかったのはなぜですか。「～気がした」につづくように、本文から二十五字までで書きぬきましょう。

問二　森先生が「いちばんよく見ていたものは何」とたずねたのは、何のためだと考えられますか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　授業中に外を見ていたことを、注意するため。

イ　わたしにしか書けないことを、わたし自身に見つけさせるため。

ウ　早く原こうを書かせて、家に帰すため。

問三　「ずっと自分らしい言葉が、ますをうめていった」とありますが、なぜ自分らしい言葉が書けたのですか。四十五字までで書きましょう。

問四　わたしが最後に題を書きなおしたのはなぜだと考えられますか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　先生に、題を変えるように言われたから。

イ　「六年間の思い出」という題は、字数が多すぎたから。

ウ　自分にしか書けない思い出を書いたので、題も自分らしいものにしたかったから。